

研究協力をお願い

昭和医科大学では、下記の臨床研究（学術研究）を行います。研究目的や研究方法は以下の通りです。この掲示などによるお知らせの後、臨床情報の研究使用を許可しない旨のご連絡がない場合においては、ご同意をいただいたものとして実施されます。皆様方におかれましては研究の趣旨をご理解いただき、本研究へのご協力を賜りますようお願い申し上げます。

この研究への参加を希望されない場合、また、研究に関するご質問は問い合わせ先へ電話等にてご連絡ください。

胎盤重量と剥離面積：分娩出血量に寄与する因子の比較

1. 研究の対象および研究対象期間

2025 年 2 月 1 日から 2026 年 1 月 31 日に昭和医科大学横浜市北部病院の産婦人科で経膈分娩した患者さん

2. 研究目的・方法

分娩の時に起こる出血にはさまざまな要因が関わります。これまでの研究では「胎盤の重さ」が出血の多さに関係することが分かってきました。しかし、胎盤の重さが本当に「胎盤が子宮にくっついていて面の広さ（剥がれる部分の大きさ）」を表しているかどうかは、はっきりしていませんでした。そこで今回の研究では、胎盤の広さ（面積）が大きいと出血も多くなるのではないかと、いう考えを検証することを目的としました。

対象は当院で経膈分娩となった単胎妊娠の方です。分娩後に胎盤の大きさと出血量の関係性を調べます。また、お母さんの妊娠経過や出産の結果にも違いがあるかを調べます。

この研究によって、胎盤の大きさが出血量と関連があることが分かれば、将来的には、分娩時の出血リスクをより正確に理解し、安全な分娩管理に役立てられる可能性があります。

3. 研究期間

昭和医科大学における人を対象とする研究等に関する倫理委員会審査後、委員会から発行される「審査結果通知書の承認日」より、研究実施機関の長の研究実施許可を得てから 2026 年 5 月 31 日まで

4. 研究に用いる試料・情報の種類

赤ちゃんが生まれた後、私たちは胎盤の重さや大きさなどを通常の診療として測定しており今回はその情報を用います。お母さんのバックグラウンド（年齢、お産歴があるか、妊娠前の BMI、妊娠方法、妊娠糖尿病があるか、妊娠高血圧症候群があるか）、分娩の結果（分娩第三期（胎盤が出るまで）の出血量、合計の出血量、分娩週数、促進剤を使ったか、分娩方法、赤ちゃんの体重、胎盤の重さや大きさ、男児か女児か、ばい菌に感染したか、赤ちゃんが具合悪かったか）を電子カルテから調査します。

6. 研究組織

研究責任者 研究機関名 昭和医科大学横浜市北部病院 氏名 奥山亜由美

7. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせください。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出ください。また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象者としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

所属：昭和医科大学横浜市北部病院

氏名：奥山亜由美

住所：神奈川県横浜市都筑区茅ヶ崎中央 35-1

電話番号：045-949-7768